

## 豪ドル急落シナリオへの疑問

マーケット エディターズ・吉田 恒

豪ドルの反落が目立ってきた。ただ、金利差との関係で見ると、金利差豪ドル優位が一段と縮小に向かわない限り、80 円を豪ドルが大きく割り込む動きが長期化する感じでもない。

### ◆豪ドル安の行方を金利との関係で考える

《資料1》は豪ドル円と日豪2年金利差のグラフを重ねたもの。豪ドル円は、ドル円などと比べると金利差からかい離しやすいとはいえるだろう。

ただ、これを今年に入ってからグラフに変えてみたのが《資料2》だ。このように、今年に入ってから豪ドル円と金利差の関係を見ると、6月以降の豪ドル高は、金利差豪ドル優位より上ぶれ気味ではあったものの、それほど極端なものではなかった。

すでに、最近の豪ドル反落で、金利差とのかい離は修正が進んでおり、金利差豪ドル優位が一段と縮小しない限り、豪ドルが80円を大きく割り込むといった見通しにはならないようだ。

### 《資料1》



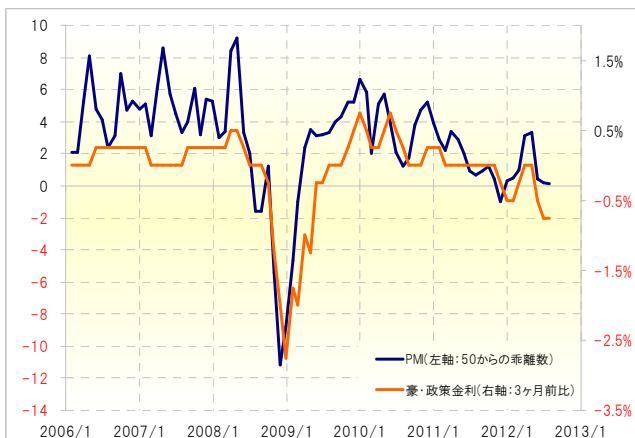
《資料2》



では、日豪2年金利差豪ドル優位のさらなる大幅縮小とはならないだろうか。2年金利は金融政策を反映する金利だから、それは豪州の中央銀行である RBA がさらなる利下げに動くかが一つの目安になる。

そんな RBA の政策金利は、《資料3》のように、中国の景気と相関関係があり、それで見るとこの間の利下げは理解できるところだ。ただ、その政策金利は、失業率とも相関関係にあるが、その関係からすると、一段の利下げは難しそうだ《資料4参照》。

《資料3》



以上からすると、政策金利を反映する 2 年金利が一段と大きく低下し、その結果、金利差豪ドル優位が、豪ドル円の 80 円を大きく割れる動きが長期化することを示唆するまで縮小する可能性は低いのではないか。(了)

《資料 4》

